

様式1(主な取組)

活動指標名	ウリミバエ防除等回数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	161	159	157	159	160 (R2)	159	100.0%	1,401,017	順調	ウリミバエ防除は、トラップ調査26回、果実調査2回、不妊虫放飼132回(4地域)(R2)実施。ゾウムシ類は津堅島・久米島でトラップ調査・寄主除去等を379回(R2)実施。
活動指標名	ゾウムシ類防除等回数				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	863	769	326	326	379 (R2)	326	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										ウリミバエ防除対策では、不妊虫放飼等を計画に沿って実施したところ、寄主植物の移動寄生を伴う緊急防除の発令はなかった。津堅島においてアリモドキゾウムシの根絶防除対策を行った結果、国による駆除確認調査が無事終了した。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕・改築について、予算確保と施工状況の把握により整備の早期完了を目指す。 トラップ回収状況を確認し、侵入発見精度の維持を図る。 津堅島におけるアリモドキゾウムシの根絶に向けて、関係機関との連携により再侵入防止とともに調査を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕及び改築について、予算の流用や繰越も活用して対応している。 対策を行う市町村に対して技術的助言を行い、侵入発見精度の維持を図っている。 地元市町村及び自治会との連携により、根絶に向けた対策を実施している。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

内部要因	外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none">・ウリミバエ不妊虫の生産及び放飼を中断することなく継続することが重要である。計画的な修繕及び改築等により機能維持に努める。・ミカンコミバエの誘殺は、年によって増減するが毎年確認されており、緊急対応をとともに実施する市町村等との連携維持が重要である。・津堅島でゾウムシ類根絶を達成するため、防除員の確実な配置が必要。	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の発生により、放飼施設の改築に若干の遅れが生じている。・本県は、ミバエ類が発生している近隣諸外国に近いため侵入リスクが非常に高い。近年はミカンコミバエの誘殺頭数が増加傾向となっている。・国によるアリモドキゾウムシの駆除確認調査が無事終了した。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕及び改築について、予算の確保とともに繰越の検討など状況の変化に対応する。
- ・侵入リスクの高まりに対して、侵入警戒や初動防除等の対応の重要性が高まっている。関係機関との連携維持・強化に努める。



4 取組の改善案 (Action)

- ・ウリミバエ大量増殖等施設及び各放飼施設の修繕・改築について、予算の確保とともに施工状況の把握に努め、繰越等の検討も行い早期完了を目指す。
- ・共同して対策を実施する市町村等に対して、対策への理解を求めるとともに、技術的助言を行って、侵入発見精度の維持を図る。
- ・津堅島におけるゾウムシ類根絶に向けて、関係機関との連携により再侵入防止とともに根絶対策を継続する。